

-----☆-----☆-----☆-----☆-----☆-----☆-----☆-----☆-----☆-----☆-----☆-----☆-----☆-----

本来なら天満橋バイブル倶楽部は OMM ビルで行うのですが、緊急事態宣言のため 8 時以降の場所の貸し出しが出来なくなったので、東住吉キリスト集会の大ホールから YouTube で配信させていただきたいと思います。

今は 2021 年 1 月 20 日水曜日、午後 7 時 25 分です。あと 6 時間ほどで、アメリカのワシントン DC で、アメリカ大統領 第 46 代バイデン大統領の就任式が行われます。私はこの就任式について 2 つほど懸念している事がありまして、それが起こらなかつたらいいなあと思っています。

1 つ目は、バイデン大統領は就任式を前にして、喜びいっぱいというよりも怯えていますね。今回暴動が起こらないように、就任式会場の周りは 2 万 5 千人の州兵/米軍兵士によってガッチリ防備されていますが、バイデン大統領はその兵士たちの身辺調査をするように言っています。「自分を守ってくれる州兵たちが、過去に共和党に投票したことがあるか、共和党に政治献金したことがあるかを調べてほしい。もしそのような過去がある兵士は、自分のすぐ近くを警護するのではなく、引き離れた所で警備してほしい。」

アメリカ大統領はアメリカの軍隊の最高司令官です。最高司令官が、自分の部下である兵士たちを信用出来ないというのはどういうことでしょうか。また、最高司令官によって信用されていないという心境になった兵士たちは、命を懸けて様々な任務に没入することは出来るのでしょうか。

ある意味、非常にきな臭いというか、緊張しているんです。恐らく 1 月 6 日の事が頭にあって。アメリカは時々、真二つに割れている状況の中で、選ばれた大統領が暗殺されることがあったので、それを気にしているのかもしれませんが。このような状況の中で、彼が何か突拍子もないことを言ったり、やらかしたりしなければいいなあと考えています。

というのは、アメリカ大統領は西側世界全体の大統領です。もしバイデン新大統領が晴れあるお披露目の式で、何かとんでもないことを口にしたたり、大失態を演じたりしたなら、今後 1 対 1 の首脳会談の時、彼のプロファイリングがなされて、徹底的に突かれるんじゃないでしょうか。アメリカ大統領は弱い大統領であるよりも、強い大統領の方が日本にとっても良いのです。だから、アメリカ大統領の弱さが、あからさまに曝け出されなければいいなあと少し考えています。

2 つ目は、ここで暴動とか何かのクラッシュというか、そんなトラブルが起こらなければいいなあと思っています。というのは、1 月 6 日に国会議事堂/下院議会議場に突入した事件がありましたね。あれは弁解の余地がない絶対悪だと思いますよ。だけど、それを報道する時、アメリカの大手マスコミ、日本のマスコミもそうですが、まるでトランプ大統領が そそのかして扇動して、彼が突入させたような報道の仕方があまりにも多いです。日本の大手マスコミは全部そうですね。

だけどトランプ大統領は、1 月 6 日にホワイトハウスの前で演説している時、繰り返して「PEACEFULL/ピースフル」という言葉を使っています。

つまり、平和的な抗議・平和的に声を上げようと言っているわけです。

しかし、その部分は完全に切り取って、「さあ、議事堂に行こう！」という、何かアジテーションしているような部分を編集し、それを見せつけている。

だから「見ろ。トランプが そそのかしてやらせたんだ」というような言い方が多いと思います。

そして、それがまるで事実であるかのように、議事堂に突入させたのは けしからんという理由で、下院で弾劾が決まったのです。下院の過半数の賛成があったので、上院の 2/3 を取ったら、トランプ大統領は弾劾された大統領となり、2 度と公職に就けなくなる。

これは事実でない事です。これから色んな事実が出て来るとは思いますが、とにかく“トランプ大統領が指示したのではないことすらも、彼がやったことにして弾劾をやる”というのが、今の民主党の方向性なわけです。

ということは、晴れ舞台の大統領就任式で、もし何か反乱や暴力事件のような、或いはテロ行為のようなバカな事をする人たちが出来たとき、それも「トランプがやらせた！」と結びつける可能性がありますね。そうなってしまったら、トランプ大統領の政治生命は本当になくなる。4 年後の再選はなくなるとは思います。なので、そんな事がなければいいなあと、祈るような心で見ているのでございます。

さて、今日 皆様に伝えたいのは 2 つのポイントです。

**1 つ目**は、バイデン政権が中国に対して軟弱路線に切り替えないように、トランプ政権は退陣するギリギリの日数まで、バイデン政権を縛るような置き土産を残しているんですね。

たとえトランプ大統領が退陣し、バイデン大統領になったとしても、中国に対して急にガードを下げたり、妥協の方策を取れないように、あらかじめ手を打っているんです。それについてお話しします。

**2 つ目**は、民主主義から独裁国家に戻ることはあるのか。民主主義は いかに壊れて行くのか。

もしかしたら、今回の大統領選挙を通して学ぶことが出来るのかもしれない。

或いは、バイデン大統領がトランプの支持者たちからも支持されるにはどうしたらいいのか。

もしそれをするなら、アメリカの民主政治は、今回の大きな傷があったにも拘わらず復活すると思えます。そのことについてお話しして、大体時間になるのではないかと思います。

### 1. バイデン政権を縛るトランプ政権の置き土産

1 月 20 日の大統領就任式をもって新しい大統領がスタートするということは、1 月 19 日までは大統領権限はトランプにあるのです。そこでトランプ大統領は、1 月 19 日まで連日、次々と対中強硬政策を切り札として切りまくっているんですね。

もう後戻り出来ないように様々な手を打っているのですが、今日 3 つだけお話ししておきたいと思えます。

**1-①** 1 月 19 日。トランプ政権はウイグル人への扱いをジェノサイド認定しました。

中国共産党はナチスと同様の行為を現在進行形で行っている。人間に対する弁解の余地のない絶対悪を行っていることを認定したんですね。ジェノサイドと認定したということは、この認定に基づいて、ウイグル人虐殺に関与している中国共産党高官たちへの制裁が確定するという事なんです。

制裁を確定させた上で、実際に制裁を実施するのは次の政権です。

制裁しなければならないというお膳立てを作って、「自分は去るけど具体的制裁はバイデン、頼むよ」と。これが第 1 点。

1-② 1月18日。ファーウェイに対する特別ライセンスを全部取り上げました。全部。  
今までファーウェイはエンティティリストに載っているのだから、最先端のICを作ること・それを供給してもらうことは出来なかったけど、普通のCPUや17ナノメートルクラスの物でも入手できなくなる。簡単に言うと、ファーウェイもシャオミも、今在庫で持っているICが在庫切れになった段階で、中継器もスマホも通信設備も一切作れなくなるということです。

ついこの間まで、スマホの世界シェアのナンバーワンはファーウェイでした。2番目がサムスン。3番目がシャオミ。アップルは4番目です。しかし今、ファーウェイは2位に下がりましたね。生産出来ないから。スマホを作るためになくてはならないICチップがもう手に入らないんですね。何も作れなくなってしまう。ファーウェイ・シャオミだけではなく、中国の先端技術商品の生産をストップさせるための政策を全部打ちました。すごいことですよ。

1-③ 1月12日。アメリカ国家安全保障戦略NSSの機密文書を公開しました。  
日本でこのスクープ取ったのは朝日新聞ですよ。  
アメリカの機密文書は、それが発行されてから30年経たないと一般公開出来ません。  
ところが、これが発行されたのは2018年2月で、まだ3年しか経ってないのに、アメリカの機密で決めていたことをオープンにしたんです。そして朝日新聞にリークし、世界中の新聞が報じました。

これは2018年2月に策定したもので、大統領自らがFOIP構想を実現すると言うのです。  
FOIPとはFree and Open Indo-Pacific (Strategy) /自由で開かれたインド太平洋(構想)。  
インドと太平洋を不自由で閉ざされた空間ではなく、自由で開かれた空間として、アフリカとも・アメリカとも・アジアとも自由に航行出来るようにしようという構想。  
つまり、不自由で閉ざされた空間にしようとしている中国を牽制する内容なんです。

これを最初に言ったのは誰でしょうか？安倍首相ですよ。トランプ大統領はそれに乗ったんです。安倍さんという政治家は色々言う方がいらっしゃるんですけど、地球的スケールで世界戦略を語っていた人やと思いますよ。クワッドもそうでしょ。

FOIP構想を実現するために、中国はアメリカとその同盟国を引き裂こうと色々画策している。特に、台湾統一をいよいよ本格化させようとしている。アメリカはどうしたらいいのか、という政策がズラッと並んでいるんですね。

2018年2月にこれが策定された後で、米中関税戦争が始まるんですよ。で、これは機密なんです。大統領補佐官のマクマスターが、機密ということで自分のサインをしています。これは30年間見ることが出来ない。しかし、3年しか経ってないのに全部オープンにしたのはなぜか？

昨年11月3日にアメリカ大統領選挙があつて、それからしばらくして、世界中の首脳の中でもいち早く、菅総理がバイデンさんに祝福のおめでとう電話を掛け、二人の間で電話会談が始まりました。

その時、バイデンさんが何と仰ったか。「繁栄し安全なインド太平洋構想」。  
“自由で開かれたインド太平洋構想”という言葉を使わず、“繁栄し安全なインド太平洋構想”。FOIPはもう単語になっているんです。この言葉を敢えて使わないで“繁栄し”。  
繁栄するというのは、“中国の一带一路構想の繁栄も認めながら”と読むことも出来ないわけではない。

大丈夫かな？この人。ということで、中国に対して強く出ない可能性がある。

なのでNSSは、ペンタゴンが3年掛かってずっと戦略を練って、アメリカの最高戦略機関がそれを策定して、ここまで進んでいるのだということ、ここでオープンにしたんです。

バイデン政権になったらオープンにしない。

中国とアメリカの戦略的対立は回帰不能点を通り越している。今おかしなことをしたら、今まで積み上げて来たものが全部ダメになる。特に台湾防衛が致命的危機を受ける。それでオープンにした。

FOIPについては、朝日新聞を読んでいただいたらよく分かります。

第一列島線。日本があって・九州があって・沖縄があって・尖閣（せんかく）があって・台湾があって・フィリピンがあって・南シナ海があって、それをずーっと線を引いたものを第一列島線と言います。第一列島線の内側で、中国には制海権も制空権も一切与えない。第一列島線の内側に入っている国は、台湾を含めて全部守る。すなわち、台湾を国家として認める。実質的に、そういう意味の文書です。

これを明らかにすることで、今更バイデンが中国との付き合い方をどう変えようとしても、回帰不能地点までレールが上を走っているんだ、ということ、明らかにした。

これが、バイデン政権を縛るトランプ政権の置き土産なんですね。

ところで、特に台湾のことを強くうたい、第一列島線を守るために日本の役割が非常に大事だと書いてある機密文書ですが、なぜそれを今明らかにしたのか？

中国が台湾統一への意識・意図をハッキリ表している。トランプ政権はそれをよく読んでいたんですね。その経緯をお話します。2018年、中国で全人代が行われ、憲法改正を2つやりました。

③-① 今まで中国の国家主席は1期5年・2期10年までと決まっていた。永久に出来ない。

これは鄧小平（トウ ショウヘイ/1904-1989）がレールを敷いたんです。

鄧小平の前に天下取っていたのは誰ですか？毛沢東（モウ タクトウ/1893-1976）。

1人の人間が引退時期なしで絶対的権力を握ったら、大躍進運動とか文化大革命とかムチャクチャになる。だから、2期10年以上は国家主席を務められないようにしよう。

しかし2018年の全人代で、習近平（シュウ キンペイ/1953-）はそれを撤廃しました。

恐らく習近平は終生、死ぬまで現役・国家主席で独走するのではないかと皆注目したんですね。

③-② 習近平思想という思想を、憲法の中に盛り込んだんです。しかし、思想と言えるような遠大な深遠なものは何もなくスカスカ。要するに、目標をズラッと並べて「これを実現しようぜ」という内容。その目標の中で世界中が注目したのが“2050年までに中国は社会主義強国になる！”

それが憲法の中にも盛り込まれた。その時、中国人民解放軍の軍部のトップたち・研究者たちは、習近平思想に忬度（そんたく）し始めたんです。どんな忬度か？

中国の領土であるにも拘らず、今、外国に不当占領されている場所が4つある。（彼らの見方ですよ。）

社会主義強国/強い国と言う以上、それを名乗るためには、この4つを取り戻すべきだ。

外国に占領され放しだしたら強国になれない。

4つの場所とは、尖閣・西沙（せいさ）諸島・南沙（なんさ）諸島・カシミール地方。

尖閣を武力行使で取り戻すなら日本と武力衝突する。西沙・南沙を力づくで取るならベトナムと戦争になる。カシミール地方を腕づくで奪い取るならインドと戦争になる。だから簡単に手が出ない。

しかし、4 つ以外で外国に占領されていないにも拘らず、中国の意のままにならない場所が 1 つある。それが台湾です。今世界に約 200 の国がありますが、「台湾は俺の国/領土だ」と主張している国はどこもありません。だから中国は、台湾を取るのが 1 番簡単な問題解決だと考えています。

そもそも中国軍の正式名称は人民解放軍。なんで“解放”という名前が付いてるんですか？なぜ 人民軍/中華人民軍ではなくて中国人民解放軍なのか？台湾を解放するための軍隊なんです。解放すべきなのにまだ解放されてない。だから取り戻すんだ！というのが中国の国軍思想なんです。国軍というより、これは共産党トップの私兵です。民兵ですよ。そんな集団。

では、習近平はどのように出世して来た人物なのか？彼は 1985 年に福建（ふっけん）省の廈門（アモイ）の副市長になりました。福建省は台湾の真正面にある省で、アモイが台湾との玄関口です。ちょうど 1985 年は、改革開放経済が始まったばかりですよ。それで、台湾のビジネスマンたちが福建省に渡って、すごい交流が始まって行くわけです。

習近平は「自分は台湾のビジネスマンとの交流もあるし、台湾問題については、どの共産党幹部よりも専門家だ」という自負があります。

彼はアモイを中心に台湾との付き合いを 17 年間やって、福建省で王様のように君臨しました。それから浙江（せっこう）省に移って中央入りを果たしますが、彼のブレインの半分は福建省出身です。現在、習近平を支えているブレイン/部下たちの半分は福建省時代の部下であって、彼らは皆、台湾問題の専門家であるという自負があります。そして、習近平自身は「私が台湾問題を解決するのだ」という思いが非常に強いんですね。

毛沢東は中国大陸から国民党を追い出すことが出来ました。英雄。

鄧小平は香港をイギリスから取り戻すことが出来ました。英雄。

習近平がもし台湾統一を果たすことが出来たら、毛沢東と肩を並べる伝説的英雄になりますね。一旦 伝説的英雄になったら、引退したとて逆襲されることはないだろう、と考えているかもしれません。いずれにしても、習近平は「台湾問題は私の代で解決する」という決意を固めているのです。

どのように解決するのか？ 従来古い戦い方なら、中国から台湾にミサイルぶち込んで、それから上陸するのですが、そんなことやってアメリカが黙ってない。それに周辺の国々に（国連は中国が拒否権を使うので国連軍は使えないとしても）有志連合組まれて、どんなことになるか分からない。

“イラクがクウェートを取ったけれど、最終的に押し戻されてしまった”というのじゃなく、アメリカの介入が来る前に、“あっと気が付いたら、もう中国のものになってしまっていた”としたいんですね。

そんなこと出来るんでしょうか？ 可能性があります。それはクリミア型ハイブリッド戦争。

2014 年 2 月、プーチン大統領はウクライナのクリミア半島を取りましたね。

あれ、どうやって取りましたか？ ハイブリッド戦争です。

これは普通の軍隊/正規軍を投入するのではなく、民兵や工作員を投入し攪乱して、いつ戦争が始まったのか分からない状態で、“何が何だかワケ分からないけれど、気が付いたら取られてた。”

そんな戦い方。

ウクライナでどんなことが起こっていたのか。

実は、習近平とプーチン、今まで約 40 回会ってるんですよ。40 回！ 会うたびに、クリミアのハイブリッド戦争について色々話し合っているそうです。そして、中国の専門家をロシアに遣わしたり、ロシアの専門家を中国に呼んだりして、このハイブリッド戦争についての研究をしていると言われてます。

2014 年 2 月、ウクライナの公安施設・鉄道・発電所などの重要施設にデモ隊が現れて、何かデモしてるんですわ。警察が「お前ら、何やってんねん？」と不思議に思ったら、兵士とかじゃなくて一般民衆にしか見えない。でも不思議な集団。なんか知らんけどデモやってる。何が不満なんや？

そして取り調べようと思ってたら、次の瞬間、なんと、ウクライナ的全領域で携帯電話が繋がらなくなったんです。それだけでなく、ニセの SNS 情報がウワーッと入ってくる。これは一体何なんだ?! みんな慌てふためいて、情報欲しいと思っていると、ウクライナの主要都市で突然大停電。停電なのでテレビ見ることが出来ない。それで皆ラジオつけたんですね。そしたら、おかしなニュースがワーッと流れて来て。

一体この国に何が起きているんだ?! 重要施設でデモをしていた人たちが実はロシアの民兵で、気が付いた時には、あっという間に占拠されていた。

今起きている事を知らなければならない。ウクライナ軍は大量のドローンを飛ばしました。そしたら、ドローンがバタバタ全部落ちたそうです。これはもうロシアの策略に違いないと確信した。既にウクライナの東からロシアの軍部が入っていて、小規模な戦闘が始まるのですが、なんとウクライナが撃った砲弾が全部途中で落ちるんです。で、気が付いたら、クリミア半島は全部ロシアの手に落ちていたというね。

2 年後にマクマスター（後にトランプ大統領の補佐官になる米軍の中将）が議会で証言しました。ロシアは攻撃するに当たって、まずロシア民兵をウクライナの一般民衆に偽装して大量に入れていた。その後、サイバー攻撃で携帯の基地局を乗っ取って通信をストップし、ニセ SNS を流して国民の心を攪乱。そしてサイバー攻撃を続けて、主要な電源のプラントに忍び込み、機能停止させた。そのため大型停電が起こったのですが、テレビからラジオに行くことを予測して、なんと、あらかじめラジオ局まで創設してたんです。ロシア側が造ったラジオ局でニセ情報のニュースを流した。

更にロシアは、強い電磁波を使ってドローンを攻撃したのです。ドローンは目的地がどこか分からなくなると、自動的に落ちるようなシステムなんだそうです。強い電磁波で目的地が分からない状態にしたことで、飛んでいたドローンがバタバタと全部落ちた。また、ロシア軍は強い電磁波を使って、ウクライナ軍の砲弾の信管を作動不能にしたんですね。今の大砲の弾は電子信管です。だから、強い電磁波を受けたら作動出来なくなる。

軍隊を使って国境突破して、世界中が見ているところで侵略戦争だ！ではなく、念入りに準備して、いつ戦争が始まったのか全然分からない。ワケが分からないうちにハッと気が付いたら、クリミア半島は全部ロシアのものになっていた。これがハイブリッド戦争です。このハイブリッド戦争を台湾に対して行うと。

台湾の中には強力な親中派の組織があります。台湾は 1945 年まで日本の一部でしたよね。

日本は戦争に負けて手放しました。その後、大陸で共産党に負けた蒋介石(ショウ カイセキ/1887-1975)が100万人の国民党軍の兵隊を率いて、あの小さな島 台湾に入ったんです。外から入って来たこの人たちのことを“外省人(がいしょうじん)”と言い、彼らは台湾を支配するようになります。

実は、台湾には三大 黒社会組織があります。黒社会とはマフィア・ヤクザ組織のこと。天道盟(てんどうめい)・四海幫(しかいほう)・竹連幫(ちくれんほう)。台湾の三大ヤクザ組織。四海幫と竹連幫は 清朝(しんちょう)時代からの大陸の秘密結社です。この秘密結社がそのまま国民党と一緒に台湾に入って来て、非合法的なマフィア活動をやっている。そして、莫大な金を共産党から貰っていて、この中国からの金で親中派の政党を作ったりしています。

白狼(はくろう)という親分は中国に住んでいて、携帯電話で台湾にいる部下たちに命令するんです。例えば、民主化運動があった時、その人たちに暴行を働いたり、日台協力協会の前で「反対!」とかワーンと言ったりしているのは大抵この人たちですよ。

ややこしいのは、今の台湾軍の情報機関のトップたち・上層部は外省人なんです。100万人の外省人が入って来たけど、台湾に親戚や一族は全然いません。だから、繋がりや軍人関係しかない。2世3世が自分の息子たちをどこに就職させるかという軍部ですよ。中国は賢くて、退役軍人たちを顧問とか同胞とか言って、人民解放軍の中国国内のイベントなどに呼ぶんです。そして彼らに肩書を与えて、すごくいい待遇をする。だから中国に住んでいるんです。親父は中国に住んで、息子・孫たちは台湾で台湾軍の情報機関で働いている。つまり、ハイブリッド戦争やる時 使えますよ。

しかも、習近平は自分の代で台湾問題にケリを付けることを、もう決めているんですね。あの香港の国家安全維持法を見たら分かるように、一旦やると決めたら、どれだけ非難されてもやるでしょう。やるんです。習近平の支持母体は軍部の強硬派です。やればやるほど、ますます人気出る。

なので、手を打ってるんです。台湾の様々なサイバー攻撃に対して、それを押し返すための強力な支援をアメリカはするし、日本に対しても同様にその支援をする。そういうことが縷々(るる)書いてあるのが先程の機密文書で、それを全部オープンにした。

オープンにしたのは、バイデン政権で政策を変えたら、習近平は“アメリカは我々が台湾を取るのを許可した”と勘違いする可能性が高い。絶対にそういうことがあってはならない。それで、“後戻りできないところまで、もう出来上がっているんだぞ”ということを置き土産にしたと言えらると思います。これが第1のポイントです。

## 2. 世界統一政府の出現

皆さんは民主主義と独裁主義、どっちがいいですか？

自由にものが言えて、政治に参加することが出来、自分が支持する人に投票し、しかも誰に投票したのかは誰にも分からない。人権が守られ、法律に従って国が治められる法治主義の民主主義の国。独裁国家とは、1人の人間の存で白が黒になったり、黒が白になったり、1人の人間が何から何まで重要決定事項を勝手に決めて、国民をコントロールする。どちらがいいですか？

もちろん民主主義だと思うんですよね。民主主義を経験した後で独裁主義の国に亡命したいとか、独裁主義の国に生まれていたらどんなに良かったとか、そんなことを思う人はいないと思います。だから、民主主義を知らない人たち、民主主義の手前の段階にあって独裁主義を経験し、「もうこりこり」ということで民主主義に行くと思いがやすい。ところが、人類歴史をさかのぼって見ていくと、独裁主義・専制主義よりも民主主義の方が歴史は長いんです。

新約聖書を見ていると、すごい独裁者が出て来ますね。

その当時、中東・ヨーロッパ・アフリカ世界を支配していたのはローマ帝国で独裁体制です。

ローマ皇帝カイザル・ローマ皇帝という 1 人の人物が、あの広いローマ帝国を治めていました

いつからそうなったんでしょう？ローマは誕生した時から独裁体制だったのでしょうか？違います。

**黙示録**でローマの最初からやりますけど、ローマは長らく元老院という 300 人の貴族たちが集まって、合議制で重要なことを決定して来たんです。話し合いで多数決で物事を決めようと。

この元老院が機能している間、独裁者が現れにくくなるように色んな取り決めを作っていました。

ローマ人は自由を大変重んじたし、人間に支配されることを非常に嫌ったので、独裁者が出て来れないように様々なことをやっていたのに、ハッと気が付いたらシーザー以降、オクタ비아ヌス・アウグスト…、ずら一っとローマ皇帝の時代が出て来るのです。

なぜ、そのようになってしまいうndらう？ 文明圏でなくてもそうなんです。

ある本を読んだら、『熱帯アフリカ・アマゾン・ニューギニアなど、いわゆる未開文明社会と言われている所の統治を見ると、独裁者は存在していない。部族社会においては、部族メンバーの合議によって物事が決まって行く。』

日本はどうだったのか？縄文時代・弥生時代の日本の統治機構は独裁体制だったのか？

それはね、分かりません。その当時の記録が残っていないから。日本で 1 番古い本は古事記で、その前のことは分からない。分からないけれど、古事記の中に 1 つ神話が出て来ます。

『神々が住んでいる高天原（たかまがはら）という天上界があって、そこに天照大神（あまてらすおおみかみ）という女神がいる。その弟がスサノオで、めちゃくちゃ乱暴狼藉、ものすごい乱暴者。あまりに乱暴が止まらない。酷すぎる。それで、天上界では八百万（やおよろず）の神々（八百万と書いて“たくさん”という意味）が集まって合議制。皆で話し合った結果、スサノオを高天原から追放することを決定し、彼は追放された。』

これは日本最初の民主的決定の記録です。日本で 1 番古い本で物事が決定した時、誰が決めたのか？話し合いです。聖徳太子の 17 条憲法でも『和を以て貴しとなす』。恐らく、その影響があったのかもかもしれませんね。

日本やローマだけでなく、未開文明でも世界中どこでも、たくさんの人々が物事を決めて行く時、合議制から始まっているんです。

これは聖書でもそうなんです。聖書を見ると、最初の間はアダムとエバ。

彼らから子孫たちが現れて、様々な町や文明を造って行って、独裁者は出て来なかったのが、ある時から出て来るんです。

創世記 4:19 レメクは二人の妻を迎えた。一人の名はアダ、もう一人の名はツィラであった。  
レメクは最初のちょっと独裁者っぽい人です。一夫多妻で奥さんは二人。アダとツィラ。

創世記 4:22 一方、ツィラはトバル・カインを産んだ。彼は青銅と鉄のあらゆる道具を造る者であった。  
トバル・カインの妹の名はナアマであった。

トバル・カインは鉄器・青銅器の鑄造・精錬技術を持っていました。

鉄は鉄として存在しているのではなく、鉄鉱石から取ります。岩石から鉄を精錬したり、青銅を精錬して道具に作り直す技術を持っていた。つまり金属加工技術を持っていた。彼はレメクの息子です。その技術・生産物は当然お父さんに献げたことでしょう。

鉄器で作る道具は、木で作られた物よりはるかに丈夫で長持ち。しかも効率が良い。

これが武器になったら、もっと決定的ですよ。鉄の武器を持っているのか、木刀しか持っていないのか。全然違います。

技術の差・貧富の差・富の差・知識の差、そういうものが出て来たとき、よりたくさん持っている者・より有利な者・より強い者は、より弱い者を踏みつけにする傾向がありますね。

これがもっと酷くなったのが人類史上最初の独裁者。レメクはこの後「俺が法律や」と言うんですよ。

創世記 4:23-24

23. レメクは妻たちに言った。「アダとツィラよ、私の声を聞け。レメクの妻たちよ、私の言うことに耳を傾けよ。私は一人の男を、私が受ける傷のために殺す。一人の子どもを、私が受ける打ち傷のために。」

24. カインに七倍の復讐があるなら、レメクには七十七倍。」

カインは自分の先祖です。カインは弟を殺したので、「私は見つかったら他の人に殺されます」と怯えますが、神は保証しました。「カインに傷を付ける者には7倍の復讐があるから大丈夫だ。」

これはカインに対する神の約束です。

それに対して、「カインに七倍の復讐があるなら、レメクには七十七倍。」

自分が自分に対して保証している。自分が憲法/六法全書になっているんですよ。

自分が神のポジションに立っているわけですよ。これは独裁者の萌芽ですね。芽です。

創世記 10:8-10

8. クシュはニムロデを生んだ。ニムロデは地上で最初の勇士となった。

9. 彼は主の前に力ある狩人であった。それゆえ、「主の前に力ある狩人ニムロデのように」と言われるようになった。

10. 彼の王国の始まりは、バベル、ウルク、アッカド、カルネで、シナルの地にあった。

皆さん、世界史で、人類文明発祥の地としてシュメール文明のことを習ったんじゃないですか？

シナルがシュメールです。シュメールの地に4つの都市があって、バベル・ウルク・アッカド・カルネ。

カルネはまだ遺跡が見つかってないので、どこにあるのかわかりません。

だけど人類文明発祥の地で、ここにバベルの塔が建てられて行きます。

ニムロデは独裁者。彼は主の前に力ある狩人であった。主の前に力を誇るというのはどういうことか？

ボクシングや総合格闘技のタイトルマッチで、選手同士の顔と顔が、鼻と唇が くっつく くらいに「おりゃー！」みたいな。

**主の前に**とは、神の前に敬虔に生きているという意味ではなく、神の前に上唇を突き出して「俺は！」みたいな態度です。そして、ニムロデは**狩人**と書いてありますが、動物だけを狩る狩人ではなくて、恐らく人間を狩る狩人です。彼に逆らう者は抹殺。

なぜ、そのように独裁者になったのか？**勇士**となった。

力の差・貧富の差・技術の差・スキルの差。文明がどんどん発達して、有利な者と不利な者・富める者と貧しい者・物知りな者と無知な者。このように分かれて行ったとき、より上位にある者が、より下位にある者をコントロールするようになります。初めは合議制であったものが、いつの間にか、圧倒的に力の強い者が何でも物事を決めるように変わって行くんですね。

ところが人類文明を見ると、文明が発達したにも拘らず、民主制を最後まで維持出来た例が1つあるんです。ギリシア文明ですよ。皆さんは人類最古の民主主義ギリシア、聞いたことがあるのではないのでしょうか？

ギリシアは統一国家ではなく、それぞれの都市ごとに国になったんですね。

山が海岸線ギリギリまで迫っていて広い平野がない。都市と都市の間を切り立った山が遮っていて、互いに交流がない。それで、都市ごとに数千人・数万人・大きくても十数万人の都市で1つの国になるんです。この都市をポリスと言います。

ポリスには戦士がいて、ポリスのために力を合わせて城壁を築き、戦争になったら戦う。この戦士だけが参政権を持っています。そして、兵士になるには武器が必要ですが、ポリスがそれを提供するのではなくて自腹。つまり、貧乏人は兵士になれない。裕福な者でないと成れない。

ポリスはたくさんありましたが、特に有名なのがアテネとスパルタ。

特にアテネは非常に勢いがあって、他のポリスをどんどん占領・支配することによって豊かになり、「俺もアテネ人になりたい。」初めはアテネの城壁の中に住んでいる人だけがアテネ人でした。

ところが、城壁の外側にもアテネ人に憧れるような人が出て来て、その中にはお金持ちもいて、自分で武器を買い、アテネが戦争に行く時は自分たちも歩兵として戦う。

「戦争に参戦したから参政権くれ。」アテネはすごい軍隊を持っているポリスになりました。

但し、みんな金持ちです。金持ちが兵士になる。貧乏人は武器を買えないから兵士になれない。

アケメネス朝ペルシアの時（アハシュエロス王の時代）、ペルシアとアテネを始めとするギリシアが戦争しました。その時のメイン戦場は海です。船で戦う。その動力はガレー船。オールがたくさんあって、漕ぎ手が何百人もいて、一生懸命漕いで。戦士・兵士は金持ちだけど、漕ぎ手は貧乏人が担当した。死に物狂いの体力勝負の漕ぎ手たちの大活躍によって、ギリシア・アテネはペルシアに勝ちました。

すると、この貧乏人の漕ぎ手たちが「俺たちも戦争に参戦したよねっ！参政権与えられて当然だよねっ！」結局、アテネ人は皆一人一票。

民会のメンバーになり、選挙で色んなことを決めるようになって、これが民主主義だったんです。

しかし、民会はいいのですが、立候補した人は当選するために、一般市民を家に招いて飲み食いさせるんです。接待。この時、公職選挙法ないんです。接待された人は「この人に入れよう」と思いますよね。

たくさん接待できるのは金持ちやと。貧乏人は接待できひんと。

結局、金持ちは金で票を買えるやないかということで、公職については選挙やめましょう。

どうやって決めるのか？ くじ引き！ギリシアのアテネの政治家は、くじ引きで決まったんですよ。くじ引きで決まった人がいい人だったら良かったけど、文字も読めないような、政治的知見がない人たちも選ばれることになるんです。

このシステムを作ったのがペリクレス（BC495？ - BC429）という将軍です。

「これはくじ引きでやる。但し、軍人は選挙でやろう。素人が指揮して戦争に勝てるわけないから、軍隊だけは人望を集めている将軍にしよう。」

ペリクレスはものすごい資産家だったので、自分のお金で色んな人を接待して 15 年連続トップ当選。彼自身は民主主義をあまり信じていないところがあって、「一般民衆に任せていたら、バカなことするんじゃないか？ でも、俺の目の黒いうちは、俺がしっかりしてたら何とかなる」みたいな感じ。

そして、ペリクレスの時代にスパルタと戦争が始まったんです。スパルタは陸軍。アテネは海軍。

「海で決着付けよう。アテネ人は城壁の中に入っていたらいいから。海の戦いで我々が戦うから。」

それで、アテネの城壁内にアテネ人たちを押し込めるのですが、その時に伝染病が蔓延して、あっという間にアテネ人口の 1/3 が死に絶えました。

記録によると、どうも天然痘みたいですね。ペストと言う人もいます。どちらかよく分からない。

ですが、ペリクレス自身がその病気に罹ってしまって亡くなったんです。

生き残った人たちはリーダーを失った。失ったけれども、今までは何となくペリクレスが目の上のたんこぶというか、睨みを利かせていた御意見番がいなくなったことで、「自由に民主主義だ！」と、政治的知見がないにも拘わらず、人々を扇動したり、そそのかしたりするのが上手いというだけの人たちの声がドンドン強くなった。

このアテネとスパルタの戦争で、スパルタに押しまくられて押しまくられて、もう負けるんじゃないか?! その最後の最後で大逆転。やっぱり海で勝負するしかないと、アテネは 150 隻も軍艦を造って、大逆転で勝ちます。しかし、勝利に酔いしれているのもつかの間、大嵐が襲来して、大きな軍艦 25 隻が沈没し、乗船していたたくさんの海軍兵士が亡くなった。

それをアテネの民会が聞いた時、「兵士の救助に全力を尽くさなかったんじゃないか？ なんであんな所に停泊させてたんだ?!」ということで、スパルタとの戦争で大逆転をもたらした 6 人の海軍将軍を、民主主義の多数決で死刑に決定して処刑しました。

スパルタに勝てたのはこのリーダーたちがいたからなのに、たった 1 つのミス、それも嵐だから、この将軍たちを責めても仕方がない部分もあるのに、もっと手を打つことが出来たはずだと。

この致命的なダメージと、非常に有能な 6 人の指導者を無理やり結び付けて、彼らのせいで貴重な戦力が失われたとして処刑してしまったので、最終的にスパルタに負けました、ということです。

つまり、民主的決定によってアテネは滅んだんです。

ちょっとこれ、アメリカと重なるね。1 月 6 日の議事堂襲撃とトランプ大統領を無理やり結び付けて。トランプが 4 年間でやった功績は、あの 1 つの事件で全部 帳消しになるんですか？

トランプは民主政治を捨てた！ と言えば言うほど、彼を支持している 7500 万人はどう思いますかね。

選ばれた人たちは、さっきも言ったように くじ引きなんです。だから「コイツはなったらあかんやろ」みたいな人たちがなるんですよ。

このくじ引きは、ドミニオンに当てはめたらいいんじゃない？

ドミニオンについては、僕は裏が取れないから何とも言えない。

昨日も CIA の女長官が辞任してたじゃないですか。あの人、グアンタナモで殺されてるとか、みんなムチャクチャ言うてる。裏が取れないのにね。私は裏が取れないのは絶対言わないです。

それはそうとして、そういう状況の中で、熱狂によってヒステリックに振り回されて行く。

一応 民主政治のシステムなんだけれども、何か壊れている。おかしいぞ。そんな時代。

そんな時代に 1 人の偉大な哲学者が生まれるんですね。ソクラテス (BC469 - BC399) です。

ソクラテスはスパルタが挑発してきた時、「今、戦争すべきではない。」

民会の殆どは頭に血が上っているから、「スパルタとの戦争、売られた喧嘩は買わなくてどうするんだ！」その時、ソクラテスは反対の票を入れるんです。「腰抜けめ！」

6 人の将軍が処刑される時も、「彼らのお陰で勝ったんじゃないか。なぜ天災・天変地異・自然現象で起こったことの責任を彼らに全部押し付けるんだ？」とその処刑にも反対票を投じている。

多数派が出していることの大抵に、ソクラテスは反対票なんですね。

ソクラテスは石工の子です。石を削ったりして。ちゃんとした教育を受けていない。

彼の教育は、アテネの広場で色んな人を呼び止めて、質問して、討議して、その人たちが常識だと思っていることに「おや？」という疑問を抱かせて、“真理という善は何か”を対話の中で探って行く。

それをすることで、民会の多くの人たちはプライドを傷つけられ、ソクラテスが嫌いでした。

しかし若者たちは、ソクラテスのやり方の「産婆（さんば）術」が実に嬉しくて、楽しくて、知的に興奮して、熱狂的な支持なんです。

「民主主義が正しく機能するためには、嫌なことにもちゃんと向き合う必要があるんじゃないですか？」だけど、結局言いがかりを付けられて、ソクラテスはドクニンジンの汁を飲んで死刑ですよ。

彼は掛けられた嫌疑に対して、一つ一つ全部反論します。

でも「お前はいつも人の意見に反対ばかり、水を差すようなことばかり言って目障りだ！お前がいることでアテネは分断されてしまう。お前が分断の原因だ！」

ソクラテスは「悪法も法。私は法を重んじる者だ」と立憲主義に立ち、毒杯を飲んで死にました。

このソクラテスの裁判については、弟子のプラトン (BC427 - BC347) が『ソクラテスの弁明』という本を書いています。それを読むことによって、2400 年前の裁判の内容を詳しく知ることが出来るんです。ソクラテスは自分で本を書いていません。彼が言ったと言われているのは、全部弟子のプラトンが書いたものです。

プラトンはアテネの民主主義に絶望して、「ナニが民主主義だ。衆愚政治じゃないか。バカな人間ばかり集まって多数決 取ったら、バカの多数決でバカの結果になるよな。」

彼はアテネを出て諸国を放浪し、アテネ郊外のアカデモスの森という所に塾を開きます。

これがアカデメイアという塾で、英語のアカデミーの語源になりました。

愚かな民衆が一時的熱狂の正義感で突っ走って、死なせてはならない指導者を死なせたり、やっではない戦争をやらかしたり、決断しなければならぬ時に先延ばしにしたり。これでは駄目だ！  
なんと、彼は民主主義を否定し出すのです。

プラトンが考えたのが哲人政治です。哲学の人が政治家になる。

愚かな人たちが話し合いで決めてバカな選択するよりも、哲学者が政治家になるか、政治家が哲学者になるか、政治的リーダーと思想的リーダーが融合する。真に哲学出来るエリートがする政治。  
これはバカな民主主義に優るのだ。

これって、独裁政治に道を開きますよ。これを受けているのが共産主義なんです。

共産主義とは“共産主義という哲学を理解している「共産黨員」というエリートが、5 か年計画で決めたことを実行するのは、民主主義で作り過ぎたり、使わな過ぎたりになるよりも、はるかに素晴らしい”という考えですよ。

一部のエリートが何から何まで決めて行ったらいいんだ。その方が正しいんだ。

このアイデアはどこから来たのか？ ずっとさかのぼって行くとプラトンです。

つまり民主主義は、行き詰って混乱すると独裁主義に行くんです。

ルイ 16 世とマリー・アントワネットの時代、あまりにも王侯貴族と一般庶民に貧富の差があった。

そしたら、マリー・アントワネットが「そんなにパンがないなら、お菓子食べたらいいのに。」

パンがないのに、お菓子なんかあるわけがない。「贅沢な人には分らんのだな」ということで、やがてフランス革命が起きますが、その熱狂で、ロベスピエールが仲間内で粛清に次ぐ粛清の恐怖政治。最終的にどうなりましたか？ ナポレオンの専制主義ですよ。民主政治が独裁政治を呼んだんです。

第一次世界大戦でドイツ帝国が滅びました。それまではドイツ帝政時代で、ドイツ皇帝が何から何まで決めましたが、ドイツ帝国が滅びた後、ワイマール憲法、人類史上最も民主的な憲法が出来ました。ところが、この憲法の下で何も決まらなくなった。

その時、「俺に任せてくれたらドイツを元気にするぜ」と言い出した男がいる。ヒトラー。

ヒトラーは最初、選挙に基いて選ばれているんです。

つまり、民主主義は民主主義を否定する人物を、民主主義にのっとして選ぶ可能性がある。

「今 民主主義を経験しているから、将来 独裁主義時代が来るなんてあり得ない」と言うのは歴史を知らない人です。

歴史を見ると、初めは合議制だったのに、知らないうちに「合議制でまとまらず行き詰まるのなら、強力なリーダーによって、より良い世界になる方がまだ楽だ。」

『Escape from Freedom/自由からの逃走』（エーリヒ・フロム）ですよ。

なぜこんなことを言っているのかというと、聖書を見ると、やがて人類は世界統一政府の下にまとまるからです。今 200 ある国が、世界統一政府の下に治められてしまいます。

ダニエル 7:1 バビロンの王ベルシャツアルの元年に、ダニエルは寝床で、ある夢と、頭に浮かぶ幻を見た。それからその夢を書き記し、事の次第を述べた。

ここを読んだのは、いつ書いたのかが分かるからです。

ベルシャツアルの元年とはBC553年。これは、世界初の中央集権国家バビロンが滅亡する14年前です。ダニエルは海から4頭の獣が現れる夢を見ました。4頭はそれぞれ特徴的で、最初の獣は鷲の翼を付けたライオン。バビロンのことです。

ダニエル 7:5 すると見よ、熊に似た別の第二の獣が現れた。その獣は横向きに寝ていて、その口の牙の間には三本の肋骨があった。すると、それに「起き上がって、多くの肉を食らえ」との声がかかった。

次は熊。ペルシア。その口の牙の間には三本の肋骨とは、リディア・バビロン・エジプトを滅ぼす。横向きに寝ていては、片方が下で片方は上の状態。

ペルシアは初めメディアという国とペルシアという国の連合国メドペルシアでスタートします。

しかし、メディアの方がはるかに大きかった。メディアの属国でしかなかったペルシアが、やがてメディアを呑み込んでペルシア大帝国になるんです。

横向きに寝ているということは、片方の手（メディア）が下敷きになって、もう片方（ペルシア）は自由になるということですね。

ダニエル 7:6 その後、見ていると、なんと、豹のような別の獣が現れた。その背には四つの鳥の翼があり、その獣には四つの頭があった。そしてそれに主権が与えられた。

これはギリシア。ペルシアを滅ぼしたのはアレクサンドロス大王の帝国です。

アレクサンドロス大王は33歳で亡くなりましたが、亡くなる時「1番ふさわしい者に後継者になって欲しい。」後継者指名をしなかった。彼の部下のうちの4人が、アレクサンドロス大王の国を4つに分捕ります。だから、その獣には四つの頭があった。そしてそれに主権が与えられた。

ここまでは既に登場した国です。ところが、ダニエル 7:7

その後また夜の幻を見ていると、なんと、第四の獣が現れた。それは恐ろしくて不気味で、非常に強かった。大きな鉄の牙を持っていて、食らってはかみ砕き、その残りを足で踏みつけていた。これは前に現れたすべての獣と異なり、十本の角を持っていた。

ギリシアの後に世界を制覇するのはローマですね。だけど、この第四の獣はローマではないんです。ローマから派生する世界統一政府の事です。

ダニエル 7:19-20, 17

19. それから私は、第四の獣について確かめたいと思った。それは、ほかのすべての獣と異なっていて、非常に恐ろしく、牙は鉄、爪は青銅で、食らってはかみ砕いて、残りを足で踏みつけていた。

20. その頭には十本の角があり、もう一本の角が出て来て、そのために三本の角が抜け落ちた。その角には目があり、大言壮語する口があった。その角はほかの角よりも大きく見えた。

17. これら四頭の大きな獣は、地から起こる四人の王である。

4番目の異様な姿の生き物は、王となるある人物を表しています。

しかし、この獣はその人物を表すだけではありません。

ダニエル 7:23 彼はこう言った。「第四の獣は地に起こる第四の国。これは、ほかのすべての国と異なり、全土を食いつくし、これを踏みつけ、かみ砕く。」

第四の獣には 2 つの意味があって、特定の人物を表すと同時に国でもある。

第四の国はローマではなく、やがて、この世界を支配する世界統一政府のことで。

なぜローマではないと言えるのか？

①これは、ほかのすべての国と異なり、全土を食いつくし。

全土は全地球のことです。ローマは全地球を支配しませんでした。

ユーフラテス川から東側は支配出来なかった。パルティアという国だったんです。

ローマが 1 番面積が広がった時も、ユーフラテス川から東側に超えることは出来なかった。

アレクサンドロスの国よりも小さかったんですよ。全土と書いてあるから、これはローマではない。

②これ（支配した国）を踏みつけ、かみ砕く。

皆さん、ローマは 1500 年続くんです。ローマは支配すると、支配した国の人々にローマの市民権を分け与えて行きました。いつまでも“俺たちの国を滅ぼした敵”ではなく、ローマの一員・ローマ人として遇することによって、ローマを愛するようにしたんです。これが、息長く続いた統治の秘訣ですよ。もしローマが踏みつけたり、かみ砕いたりしていたら、ローマはこんなに長生き出来ませんでした。だから、これはローマではありません。

③第四の獣は地に起こる第四の国。

ローマは東ローマ帝国と西ローマ帝国に分かれて行きますが、ここの国という言葉は単数形なんです。

単数形で、全地球をコントロールする。逆らう者は容赦しない。これはローマには当てはまらない。

だからこれは、やがて出て来る統一政府であることが分かります。

ダニエル 7:24 十本の角は、この国から立つ十人の王。彼らの後に、もう一人の王が立つ。彼は先の者たちと異なり、三人の王を打ち倒す。

十本の角は、この国から立つ十人の王。世界統一政府は、やがて 10 個のブロックに割れます。

今 約 200 ある国々が 10 か国になる。10 か国になった後で、彼らの後に、もう一人の王が立つ。

もう一人の王こそが第四の獣の中心的な役割を果たす人物で、反キリストと呼ばれています。

彼は先の者たちと異なり、三人の王を打ち倒す。

10 か国のうちの 3 か国が、反キリストによって滅ぼされる。

彼は残りの 7 か国を束ねながら、全人類を支配します。しかし、いつまでも続くのではない。

ダニエル 7:25 b 聖徒たちは、一時と二時と半時の間、彼の手に乗ねられる。

一時と二時と半時を足すと 3 年半ですね。反キリストが君臨するのは 3 年半だけ。

この 3 年半の統治を終わらせるために、キリストが地上再臨します。

ダニエル 7:26 しかし、さばきが始まり、彼の主権は奪われて、彼は完全に絶やされ、滅ぼされる。

誰によって？ 地上再臨のキリストによって滅ぼされるのだ、ということです。

話は前後しますが、アメリカンデモクラシーという言葉があるくらいなので、アメリカでは民主主義がすごく重んじられて、選挙に不正なんかあるはずがないと思われたのですが、どう見ても、憲法違反の選挙をやっていますよ！ ペンシルベニア州をはじめとして。

そして日本の多くの、多くじゃなくて全部や！全部！もうね、“この分断はトランプがもたらした。トランプが そそのかした。トランプが かどわかした。そして、議事堂に突入するという憲政史上 最悪の事が起こった。トランプがなんぼ良いことをやったとしても、この汚点は永遠に残る！”と書いてありました。色々な新聞に。

だけど、あの1月6日、少なく見積もっても 50 万人以上が集まったんですよ。

旅費も何も全部自腹ですよ。それに1月のワシントン DC はめっちゃ寒い。

私 6月にカナダに行ったことがあるけど、めっちゃ寒かった。「それは、お前が寒がりやから。」

そうかもしれません。だけど、緯度を考えてくださいよ。

そこに全米から 50 万人が集まったわけでしょ。なぜ集まったんですか？

「不当に扱われている！」と思っているからではありませんか？

どれほど「不正選挙の証拠はこれだ！」と言っても、大手マスコミは一切無視。裁判所は門前払い。SNS はアカウント永久凍結にして、「真実が曲げられていいのか！」という怒りで集まったんですよ。

「不当に扱われているんだ！」と思って集まっている人に対して、「知性のない人たちが 陰謀論に かどわかされているんだ」と言ったら、「アメリカの有権者の半分はバカモノだ」と言っているのと同じではないですか？

そんな扱いをされた時、次の大統領はトランプ大統領が選挙で負けたから仕方ないわ、となるでしょうか？ 史上最弱の大統領になる可能性がありますよ。

どう考えても、例えば、各州の議会の公聴会などで、おびたしい数の人たちが「私は宣誓します」と宣誓供述書を書いて。これは「嘘だったら刑務所に入っても構いません」という意味ですよ。また、ピーター・ナヴァロが様々な詳細なレポートを出したり、色々なことをしていますが、「いや～、そんなのは、陰謀論、インボーション。」

もしバイデンさんに、トランプ支持者から「おっ、4 年間はコイツにちょっと託してみてもいいかな」と思ってもらえるような ウルトラ C の技があるとすれば、トランプが作った調査団ではなく、バイデン自らが音頭を取って、超党派独立の今回の不正選挙についての特別調査チームを作ることです。それが自分に不利になることであっても、断固としてそれをやる。

その時 初めて「この大統領、見どころあるじゃないか」と考えが変わります。

力で押し切って行くと民主主義に対する失望。民主主義に失望したら、次何が来るんでしたっけ？ 独裁に近いものが来るかもしれませんね。アメリカにすら そんなことが起こり得るなら、日本はどうでしょう？

さて、世界を見ると、独裁の方に向かって ずーんと進んでいます。今、そのゴールに向かって進んでいる。しかし最終的ゴールは、キリストが地上再臨して 反キリストを滅ぼすんですね。

ダニエル 7:11-13

11. そのとき、あの角が大言壮語する声をしたので、私は見続けた。すると、その獣は殺され、からだは滅ぼされて、燃える火に投げ込まれた。

12. 残りの獣は主権を奪われたが、定まった時期と季節まで、そのいのちは延ばされた。
13. 私がまた、夜の幻を見てみると、見よ、人の子のような方が天の雲とともに来られた。その方は「年を経た方」のもとに進み、その前に導かれた。

13. 人の子のような方が「年を経た方」のもとに進み、その前に導かれた。

イエス・キリストは新約聖書で、ご自分を何と名乗ったかご存知ですか？

「わたしは」とは殆ど言っていない。もちろん言っている時もあります。

しかし、しばしば「人の子は」と言っているのです。

人の子は、人間の子供の意味もあるけれど、イエスが言う人の子の意味はダニエル書7章の引用です。

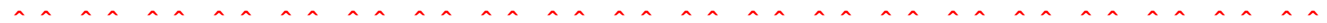
「この世界を最終的に平和に導くため、世の終わりに、反キリストを滅ぼすために地上再臨する。

それはわたしだ。」この宣言を自分の呼び名を通して語っておられるのですね。

しばらくね、いよいよ世界が動きますので、どうぞ皆さん、この東住吉 YouTube チャンネルをお見逃しなく、またお付き合い願えたら嬉しく思います。

そして聖書を通して、ぜひ創造主なる神イエス・キリストと出会ってください。

心からお勧めして、今日の講演を終えたいと思います。最後まで、ご清聴ありがとうございました。



\* 動画は YouTube で「HCA 東住吉キリスト集会」

\* ラジオ番組「聖書と福音」（約15分）もぜひどうぞ。YouTube もあります。

\* YouTube 「ごうちゃんねる」もぜひ見てください。

動画筆記 : Rumi